

かいそう普及だより

<https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kaisou/>

発行
千葉県海匠農業事務所
改良普及課

千葉県旭市二1997-1
電話 0479-62-0334
FAX 0479-62-4482



お互いのほ場を訪問して情報交換

農業事務所では、新規就農した青年農業者等の営農技術・知識の向上、地域への定着を促進することを目的として、今年度も「農業経営体育成セミナー」を開講し、37名が参加しました。セミナーは3年間のカリキュラムに基づいて行っています。

1年目の「基本研修」では、海匠地域の農業の特徴や、農薬の安全使用、土壌や肥料の特性、農作業中の事故防止等の農業の基本的な知識・技術の習得を目指した研修会を開催しました。また、研修生が互いには場や作業場等を訪問

地域を支える若手農業者の育成 ～農業経営体育成セミナーの取組について～

する「相互訪問」を行い、栽培技術や販売等の工夫について情報交換することを通じて、知見を広げるとともに、互いの関係性を深めることができました。

2年目の「専門研修」では、病害虫防除や土壌改良、経営分析の手法等、より専門的な技術・知識を習得するための研修会を開催しました。また、「プロジェクト活動」として、研修生自身が営農上で解決したいこと、あるいは新たに始めたいことを見つけ、それを課題として設定し、実現に向けて取り組みました。

3年目の「総合研修」では、経営分析についての講義、優良事例の視察、ライフプランや経営計画の作成方法について研修会を行いました。また、今年度は通常の研修会後に「自主勉強会」を行い、研修生同士で話し合いながら経営分析、ライフプランや経営計画の作成に取り組むことができました。

3学年合同でも研修会を開催し



農業士と経営目標について話し合う

今年度は地域の農業士との交流会を開催しました。旭市でミニトマトを栽培されている農業士の経営を視察し、その後研修生と農業士が、農業経営の今後の目標について意見交換を行い、互いに関係性を深めることができました。また市場流通に関する研修として大田市場を視察し、市場や青果卸売会社の役割、野菜等の価格決定の仕組みについて学ぶことができました。

新規就農された方は、農業経営体育成セミナーに参加して、農業に関する知識の習得や、地域の仲間づくりに取り組みませんか。次年度の研修生募集は、令和7年4月～5月に行います。興味のある方は是非お問い合わせください。

指導農業士・農業士紹介

令和6年12月19日に認証された海匠地域の指導農業士2名、農業士12名を御紹介します。指導農業士には担い手育成、農業士には地域農業をけん引する役割が期待されています。

【指導農業士の方】



加藤 善英さん
(旭市)
施設野菜

イチゴの専作経営で、市場出荷向け品種に特化した栽培を行っています。出荷組合の多収賞を複数回受賞し、コンテナ出荷の取組を積極的に導入しています。



椎名 寛さん
(匝瑳市)
施設野菜

大玉トマトの専作経営で、収量は地域内でトップクラスです。土づくりにこだわり、毎年、トレンチャーで深耕をかける、根張りを向上させています。

【農業士の方】



宮内 由実さん
(銚子市)
露地野菜

キャベツ、トウモロコシに加え、新規にサツマイモ栽培に取り組んでいます。無人直売所開設やSNSでの発信、加工品開発を積極的に行っています。



林 宣弥さん
(銚子市)
露地野菜

ダイコン、キャベツ、スイカを主力品目に、堆肥や緑肥を活用した土づくりに力を入れ、高い収量を得ています。



石橋 政和さん
(旭市)
露地野菜

長ネギで大規模・周年栽培を行い、ASIA GAP認証を取得し、労働環境の改善等に取り組んでいます。



石橋 明昌さん
(旭市)
露地野菜

長ネギで大規模・周年栽培を行い、新規栽培者へ栽培指導や、販路の紹介を行い、後進育成に取り組んでいます。



廣岡 勇人さん
(旭市)
施設野菜・水稲
露地野菜

接ぎ木による自家育苗や、炭酸ガス発生装置を活用した栽培管理を行い、主力の施設野菜では袋詰め出荷やインターネット販売により販路を拡大しています。



石毛 諭さん
(旭市)
施設野菜・水稲

主力のキュウリは摘心栽培で3作型を導入し、ウイルス病を含むリスク分散を図っています。また接ぎ木技術に優れ、自家育苗を行っています。



古橋 篤毅さん
(旭市)
水稲

堆肥を使用した水稲栽培や稲わらの収集を行い、耕畜連携に取り組んでいます。水位センサーによる水管理やドローンによる作業効率化を図っています。



掛巢 壮さん
(旭市)
露地野菜・水稲
果樹

コカブ、水稲、ブルーベリーの複合経営で高収量と低コスト化、年間の労働時間の平準化を図り、経営安定につなげています。



石毛 司さん
(旭市)
露地野菜

緑肥作物の導入や複数品目での輪作による土づくりを行い、ダイコン、キャベツ、ニンジンでは積極的な機械導入により省力化を図っています。



佐久間 喜広さん
(旭市)
露地野菜・施設野菜・水稲

メロン、リーフレタス、キャベツを栽培し、年間を通じて切れ間のない出荷を行っています。また、メロンの立体栽培にも意欲的に取り組んでいます。



宮内 康行さん
(旭市)
露地野菜・施設野菜

2重トンネルによるメロンの早期作型を導入し、作期を分散しています。食味にこだわった栽培により、個人注文のリピーターを獲得しています。



石毛 淳さん
(旭市)
露地野菜・施設野菜

メロンでは立体栽培を積極的に導入し、キャベツでは鉄コンテナ出荷による省力化を行っています。販売面では、SNSを活用したPRにも取り組んでいます。

キャベツにおけるコナガの野外での薬剤感受性の検討について

かねてより、キャベツではチョウ目害虫防除は重要課題です。その中で「コナガ」は薬剤抵抗性の発達が報告されており、産地からは効果的な殺虫剤の利用方法の提示が求められています。平成30年度に実施した当事務所による試験においては、ジアミド系剤での薬剤感受性の低下が確認されており、その後の薬剤感受性の変化や、後発の薬剤に対する感受性を確認し、これをもとに薬剤ローテーションの例を作成して配布しました。

試験は東総野菜研究室ほ場にて、キャベツ「初恋」を対象に、5月24日～6月7日に行い、13薬剤を供試しました。十分にコナガの発生密度が高まったところでこれらの薬剤を散布し、コナガの個体を経時的に調査したところ、現在市販されているジアミド系剤は、後発の薬剤も含め、おおむね薬剤感受性の低下が起きている可能性があることがわかりました。引き続き、ジアミド系剤をコナガの防除を目的として使用するのには難しいと思われる。

春どり	3月			4月			5月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育・作業	定植	外葉展開		結球			収穫		
防除例	ハチハチ	ディアナ		グレーシア			プロフレア		
				アドマイヤー			トランスフォーム		
秋どり	8月			9月			10月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育・作業	播種	本圃準備・定植		外葉展開			結球		収穫
防除例	ベリマークまたは プリロップ(育苗圃場)			フェニックス					
		フォース		アドマイヤー	ハチハチ	ディアナ	プロフレア		

図 薬剤ローテーションの一例

これを踏まえて、春どりの作型では、被害の中心となるコナガに対して効果の高かった薬剤を中心に、作用機構の異なる複数種類の薬剤を組み合わせるローテーションを提案しました。

秋どり・冬どりの作型においては、コナガ以外のチョウ目害虫の被害が大きいため、それらに卓効を示すジアミド系剤を使用し、コナガが多発する可能性がある晩秋には薬剤を切り替える薬剤ローテーションを提案しました。

みどりの食料システム戦略の推進について

近年、地球環境の保全の必要性が強く指摘されています。その中で、食料の安定供給・農林水産業の生産力向上と持続性の両立が求められています。農林水産業において、その活動に起因する環境負荷の軽減を図ることは、次世代に向けて取り組まなければならない重要かつ緊急の課題となっています。

【みどりの戦略】

農林水産省は「みどりの食料システム戦略（以下みどり戦略）」を2021年に策定しました。

2050年までに、①農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現②化学農薬使用量の50%低減③化学肥料使用量の30%低減④耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大等の数値目標を掲げて、農林水産業の生産力向上と持続性の両立に取り組むことになりました。

【みどりの食料システム法】

2022年にみどりの戦略の実現のために、「みどりの食料システム法」が施行されました。

環境負荷低減事業活動やこれを支える事業者の取組を、県や国が認定し、認定を受けた生産者や事業者に対し支援措置を講じることになりました。

【千葉県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本的な計画（以下基本計画）】

これらを受けて、千葉県及び県内53市町村では「基本計画」を策定しました。

2030年までに、①化学農薬使用量10%低減②化学肥料使用量20%低減③有機農業の取組面積1,200ha④農林水産業における温室効果ガスの排出削減量7.4%等の目標を掲げています。

これらの目標達成につながる環境への負荷を低減させるために行う事業活動を促進するため、農林漁業者が作成する「実施計画」等を県が認定し、その活動を税制(所得税・法人税の優遇措置等)や金融面(無利子の貸付け等)において支援する認定制度（みどり認定）を創設しました。令和6年12月末日現在で、県内で69名の方が計画認定されています。

問い合わせ先 海匠農業事務所 企画振興課

0479(62)0156

キュウリ緑斑モザイクウイルス病について

キュウリ緑斑モザイクウイルス病は十数年前から管内で発生しているウイルス病です。本ウイルスに感染すると、生長点～下葉までのモザイク症状や生育不良、果実にも激しいモザイクや奇形が発生し、商品価値を低下させます。また、生長点付近からの萎れを伴うケースも多いです。

管内においてある程度の地域的偏りはありませんが、産地全体で発生しています。

主な伝染源は土壌伝染及び汁液伝染です。感染拡大、次作への持ち越しを防ぐためには残さの腐熟促進及び汁液伝染防止の徹底が重要な対策となります。早期発見・対策に努めましょう。

現在、農協、農林総合研究センター及び各メーカー等と連携し、次の試験を実施しています。

- (1)アザミウマによるウイルス媒介の有無
- (2)キュウリ残さ分解促進の試験
- (3)蒸気土壌消毒試験

(旭グループ)



図：点
上生長
生付近



図：の
左実
果状

銚子農業にイノベーションを！ 「あぐり女子いるCOCOO銚子」が発足

銚子市の20代から50代の女性農業者23名が「あぐり女子いるCOCOO銚子」を発足しました。銚子市の農業女子が繋がり、学び、行動して自分自身のスキルの向上と銚子農業の未来を切り拓き、農業の活性化を図ることを目的としています。



11月18日設立総会でメンバー集合！

活動スローガンは「女子力でイノベーションに取り組み、COCO(ここ)銚子から彩りある農業を実践します」。今後は、生産管理技術などの農業に関する研修会や先進地視察研修会などをおし

て会員同士の交流を深めていきます。さらには、地域密着型の農業プロジェクトやイベントを企画し、地域の活性化にも貢献していきます。

会長もいなければ、会費もない、会員の自主的な企画・開催も可能な、緩やかな農業女子ネットワークです。ぜひ、会員登録して一緒に活動しませんか。

(銚子グループ)

問い合わせ先 海匠農業事務所改良普及課
0479(62)0334

水田裏作ブロッコリーの栽培

匝瑳市と多古町にまたがる借当川沿岸では、基盤整備に向けた取り組みが進んでいます。その一環として、水田で作付けする高収益作物として裏作ブロッコリーの試作を実施しました。

高畝に仕立て、明きよを設置する等、排水対策をとった上で、9月19日に定植しました。途中、ヨトウムシ類による被害などに見舞われましたが、生育は順調に進み、年末ごろから徐々に収穫期を迎え、地域の生産者が力を合わせて収穫作業を進めています。

今年はブロッコリーの他にも、高収益作物の候補として夏どりネギの試作を行ったほか、来年度はエダマメの試作も検討されています。

水田の効率的な活用による地域農業の発展が、今後も期待されます。

(匝瑳グループ)



ほ場の様子